

## ◆ 中間取りまとめにおける災害発生の特徴(ポイント)

### ポイント① 長時間の降雨

数日間に及ぶ比較的長時間続いた降雨

### ポイント② 脆弱な地質地帯

長時間の降雨により、火成岩類や崖錐堆積物等が堆積した脆弱な地質地帯で崩壊が多発

### ポイント③ 森林の機能を超えた災害

崩壊深さは、根系の影響する範囲を超えた深さにまで及んだことが確認されており、森林の山地災害防止機能の限界を超えて発生

### ポイント⑦ 治山ダムの破損

治山ダムは、コアストーン等により、袖部等が破損しているものも確認されたが、溪床勾配の緩和により侵食量が低減され、流下土砂量の抑制効果は発揮

### ポイント④ 尾根部付近\*からの崩壊

通常崩壊が発生しにくい尾根部付近でも、長時間の降雨により地下水が上昇し土層が著しく飽和して崩壊が多発

### ポイント⑤ 長い流下距離により溪岸・溪床が侵食

尾根部付近からの崩壊により、長い流下距離で、溪岸・溪床を侵食しながら多量の土砂・土石が流下し被害が拡大

### ポイント⑥ コアストーン等の流下

流下した土石の中に2m~3mの未風化の花崗岩の巨石(コアストーン)等があり、破壊力が増して下流への被害が拡大

### ポイント⑧ 課題となった警戒避難体制

避難指示があったにもかかわらず多くの住民が避難せず被害が拡大(一方で、住民が異常な出水を確認し避難したことにより、人的被害に至らなかった事例あり)

